

体験談

自分にとっての薬

ユメ

自分は家庭にあまり恵まれずに子供の頃を過ごしました。

何をするにも怒られて育ち、物心がついた時にはいとこの家に預けられていましたし、肩身の狭い周りに気を使ってしか生活できない子供だったと思います。

そんな自分が薬物に出会ったのは高校生の時でした。高校は全寮制でしたし地元からは離れた場所にありましたが、そこで知り合った友人と最初のうちはベンジンを吸っていました。そのうちに暴走族の友達ができ、その人の家に遊びに行くようになりました。

そこで初めてトルエンに出会いました。

初めて使った時、見栄をはって「俺はトルエンをやったことがあるぞ」と言っていました。ですが実際にトルエンを吸ってみると今までのベンジンとは違い凄い幻覚が見えて自分の事が分からなくなってメチャクチャにラリっていました。とても衝撃的な出会いで、こんなに楽しいものがあるとは思っていませんでした。

そのうちに高校も中退して地元に戻り今度は自分が暴走族に入りました。そこからはシンナーと暴走族の集いに明け暮れ、毎日が楽しくて仕方がなかったのを覚えています。

ただ今思えば、多分楽しかったのは自分だけで周りの人達は楽しくなかったんでしょうね。自分はシンナーを吸うと怒りっぽくなって周りの人達を威嚇したり、暴力を振るったりしていましたから。当然ですけど周りの友達自分から離れていきました。

その頃にマリファナに出会いました。マリファナを使うと、とても楽しくて気分がとても良くて笑っぱなしでした。

18歳くらいになってヤクザになったんですが、少年院に入ったのを切っ掛けに1年か2年くらいで逃げ出しました。ヤクザを辞める時に助けてもらおうと頼ったのが暴走族時代には対立していた人なんですが、どうしようもなかったんで・・・仕事も紹介してもらいました。



そんな時に覚醒剤と出会いました。その時も俺は「やった事があるんだぞ」って周りの人達に見栄をはって使いました。トルエンの時と同じように・・・

全ての疲れが無くなり、心が落ち着き、今までに味わったことがない感覚になりました。

ただ、半年位で覚醒剤は使わなくなりました。シンナーの方が楽しかったんです。覚醒剤をやめてシンナーを使う、何だかいいんだか悪いんだかわからないですけどね。

22歳で結婚をして、子供が出来て、幸せが少しずつ近づいていたような気がします。これで落ち着いていたら良かったんですけど、仕事はいい加減、考え方も自己中心的で結局は23歳で離婚をしました。

それから26歳だか28歳までは薬は使わなかったのですが、何を思ったんですかね～？なんとなく薬を買に行きました。マリファナが吸いたくて売人の所に行ったんですが、「覚醒剤を1回買ってくれたら次からマリファナ売ってあげるよ」と言われて仕方がないから覚醒剤を買いました。そこから自分はキチガイのようにシャブ漬けになりました。量も少しずつ増えて1回で約1万円。周りの人間はだんだん減っていき薬が唯一の

友達になりました。使えば使う程自分はおかしくなるしコントロールも利かなくなり、アパートの電気とガスも止められるようになりローソクの火で生活するようになりました。それでも薬は止まりませんでした。全ての人に見捨てられた感覚になり、車の中で生活し始めました。いつしか金もなくなり、気が付いてみたら交番に飛び込んでいました。幻聴や指令のようなものが自分から離れなくなり、どうすることも出来ませんでした。

結局は執行猶予出てきたんですが普通の社会生活についていけなくなっていて精神病院に入退院を繰り返して、約4年位でダルクに入寮することになりました。

ダルクに入寮した頃には幻聴はなくなってきていたんで自分なりにプログラムに集中できました。ただ、頑張りすぎとか力を入れすぎていたのかもしれない。いい加減が良いと仲間からきいていたんですが、「俺はこいつらとは違う、仕事もしていたし、病気なんかじゃない。」と。

しかし、毎日ミーティングを重ねて、仲間の話を聞き、自分の話をしていくうちに、皆と自分の過去してきた経験にあまり変わりが無いということに気づいていきました。自分も同じ薬物依存症という病気なのだという事を受け入れることができました。病気だということを受け入れると、とても楽になりました。今まで意志の問題だといろんなことをしてきて、ことごとく失敗していたからです。病気なのだから回復していけば良いんだ。という考え方はとても自分を楽にしてくれました。

病気なのだから、どんな治療をすれば良いのか。施設のスタッフに「生き方を変える」ということが治療だと教わりました。いろいろ考えてはみたものの自分にできることは、まず行動を変えるということでした。今まで言ったことのなかった「ありがとう」から始めてみました。いままでは謝っているみたいな「すいません」から感謝の「ありがとう」にかえるということは、少し恥ずかしいような気がしましたが、とても気持ちの良いものでした。そのことが薬物依存からの回復の大きな一歩となりました。

考えてみると、それまでの私は、悪いことをしたときにだけ謝って（言い訳をして謝らないこともあった）、何かしらいつも悪いことは人のせい、良いことだけは自分のおかげと人や物事に感謝するということができなかったことにも気づくことができました。

そして、今があります。私はクスリを使って生きてきたことを、悪いことだけではないと思っています。それは、この「生き方を変える」プログラムに出会えることが出来たからです。ありがとうございます。

